

1 太宰治記念館「斜陽館」

■五所川原市金木町朝日山412-1 ■0173-53-2020
■8:30-18:00(5月~10月)/9:00-17:00(11月~4月)
■定休日:12月29日

津軽の生んだ文豪・太宰治の生家。欄間や襖、どこをとっても豪邸です。そこで生まれ育った太宰治には太宰治記念館「斜陽館」でしか会うことが出来ない価値ある場所です。



■入館料:一般500円・高大生300円・小中学生200円
※津軽三味線会館(入館料500円)も利用の場合は共通券900円をご利用できます。
■アクセス:津軽鉄道金木駅より徒歩7分

3 太宰治疎開の家(津島家新座敷)

■五所川原市金木町朝日山317-9
■0173-52-3063 ■9:00-17:00(夏季8:30)
■定休日:不定休(ほぼ毎日公開しているが、事前にご確認ください。)



ひっそりと隠れた大正建築で出会う、もうひとつの大切な太宰治の暮らした家。疎開した際に23作品を執筆した隠れ家で数々のエピソードがあります。そんな興味深い話や心温まる魅力的なガイドを楽しむことも出来ます。

■入館料:一般500円・小中学生250円
■アクセス:津軽鉄道金木駅より徒歩4分

4 雲祥寺

■五所川原市金木町朝日山433 ■0173-53-2074

太宰治が幼い頃、子守の「タケ」に連れられてきた寺です。太宰治の作品に出てきた「地獄絵」や「後生車」が今でも展示されています。

■アクセス:津軽鉄道金木駅より徒歩約7分



太宰治のふるさと。豪快華麗な津軽三味線。魅力いっぱいの活気あふれる金木で自然と文化を感じてください。

2 津軽三味線会館

■五所川原市金木町朝日山189-3 ■0173-54-1616
■8:30-18:00(5月-10月) ■9:00-17:00(11月-4月)
■定休日:12月29日

展示室をはじめ多目的ホール、舞台、野外ステージがあり、津軽三味線の生演奏を堪能することが出来ます。津軽三味線の生演奏は10時(12月~3月はなし)、11時、13時30分、14時30分



■入館料:一般500円・高大生300円・小中学生200円
※斜陽館(入館料500円)も利用の場合は共通券900円をご利用できます。
■アクセス:津軽鉄道金木駅より徒歩7分



5 芦野公園

■五所川原市金木町芦野

桜2200本がある芦野公園は、日本さくら名所100選にも選ばれたのどかな公園です。太宰治が少年の頃よく遊んだ場所で、太宰が歩いた遊歩道や文学碑があり、散策コースとしても有名です。大きな湖の上に浮かぶ、浮き橋と吊り橋から見る景色は絶景です。春には、桜のトンネルを通る津軽鉄道の列車も楽しみの一つです。



■アクセス:津軽鉄道芦野公園駅下車
■桜まつり期間:4月29日~5月6日

6 喫茶 駅舎

■五所川原市金木町芦野84-171 ■0173-52-3398 ■10:30-16:30
■定休日:12月29日



津軽鉄道開業当時(昭和5年)から使用していた芦野公園駅を喫茶店として営業。かなぎで親しまれている「馬肉」を利用した「馬まん」や「激馬かなぎカレー」は、大好評で、リピーターも多いほど。レトロな店内でのんびり過ごしながら、津軽鉄道の列車が通る景色を見ることが出来る隠れ家的存在です。

■アクセス:津軽鉄道芦野公園駅隣



太宰治の足跡

- 1 葡萄畑跡…小説「思ひ出」に葡萄畑が紹介されています。「ヤマゲンの向かいには銀行と警察署が並び…(略)黒っぽい紫色の大粒の葡萄でヤマゲン自慢の一つだった。」と描かれています。
- 2 金木尋常小学校跡…現・公立金木病院駐車場。太宰治が通った小学校の跡地で、「私は学校が嫌いでしたが、学校の本などで勉強したことは一回もなかった。」と小説「思ひ出」の中で記しています。
- 3 太宰治思い出広場…旧明治高等学校跡へ続く道端にあり、太宰治の作品名のプレートで囲まれた憩いの広場です。
- 4 組合立明治高等学校跡…現・金木小学校敷地。太宰治が尋常小学校を卒業後、父が学力補充のためとして通わせた学校で、「私はその頃既に記憶の減退を感じていて、(略)私にとって、そんな経験は初めてであった」(小説「思ひ出」より)
- 5 太宰治文学碑…太宰が子供の頃よく遊んだ芦野公園の登仙峠、桜と松林の木立の中に建立されました。毎年6月19日は太宰治生誕祭として全国からファンが集まり、太宰を偲び文学碑に献花します。
- 6 太宰治銅像…平成21年6月19日、太宰治生誕百年を記念しその文学功績を讃え、太宰治銅像を建立。銅像を制作したのは、彫刻家・中村晋也氏で、和服姿の太宰をモチーフに、生前愛用していたマントを羽織ったイメージで制作されています。



おすすめ品紹介

馬肉のくんせい

馬肉の専門店「小田桐産業」の「馬肉のくんせい」は、刺身で利用する部位を燻製にしたもので、旨さが口の中に広がり、あとほたり(おかわり)する一品です。観光物産館「マティニー」などでお買い求めいただけます。

【小田桐産業】
■五所川原市金木町中柏木鐘石268-12
■0173-52-2576 ■8:00~18:30
■定休日:第2・第4日曜日
【金木観光物産館マティニー】
■五所川原市金木町朝日山195-2
■0173-54-1155
■9:00~18:00(4月~10月)
■9:00~17:15(11月~3月)



馬肉のくんせい
100g ¥840

7 藤の滝

■五所川原市金木町喜良市山

小田川ダムの上流にある2段の滝で、太宰治の小説「魚服記」の舞台とされています。藤の滝という名の通り、5月頃には藤の花でいっぱいになり、新緑を楽しみ、紅葉を楽しむ時期は隠れた名所としてお勧めです。

■アクセス:金木駅より車で約15分
※冬期間は通行止めとなります。

